

食品安全情報（微生物） No.22 / 2019（2019.10.30）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

[【世界保健機関（WHO）】](#)

1. スーダンで発生中のコレラアウトブレイク

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. ペットのカメに関連して発生しているサルモネラ (*Salmonella* Oranienburg) 感染アウトブレイク (初発情報)
2. メキシコ産カキに関連して複数州にわたり発生した胃腸疾患アウトブレイク (最終更新)

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 公衆衛生通知：Filicetti ブランドのマイルドドライソーセージ (ITALIAN STYLE SAUSAGE) に関連して発生しているサルモネラ (*Salmonella* Litchfield) 感染アウトブレイク (初発情報)

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed)

[【欧州食品安全機関（EFSA）】](#)

1. 家畜、フードチェーンおよび公衆衛生に関するリスク評価の研修

[【アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）】](#)

1. アイルランドにおける A 型肝炎の疫学的状況 (2018 年)

[【ProMed mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報 2019 (22)
-

【国際機関】

- 世界保健機関 (WHO: World Health Organization)

<http://www.who.int/en/>

スーダンで発生中のコレラアウトブレイク

Cholera – Republic of the Sudan

15 October 2019

<https://www.who.int/csr/don/15-october-2019-cholera-republic-of-the-sudan/en/>

2019年9月8日、スーダン連邦保健省 (FMoH) は、エチオピアおよび南スーダンとの国境 (スーダン南東部) に位置する青ナイル州 (BNS) の4地域においてコレラアウトブレイクが発生したことを世界保健機関 (WHO) に報告した。初発患者は2019年8月28日に検出された。

8月28日～10月12日に、死亡者8人を含む計278人のコレラ疑い患者が報告され (致死率: 2.88%)、州・地域別の内訳は、青ナイル州の Al Roseries (113人)、Ad Damazin (55)、Wad Almahi (3)、Baw (5)、およびセンナール州の Abu Hugar (80)、Singa (4)、Alsoky (14)、Aldaly wa Almzmom (3)、Sennar (1) である。患者のうち172人 (62%) が女性で、238人 (93.1%) が5歳を上回っている。

10月2日までに、当該州の患者由来42検体のうち28検体 (67%) について、国立公衆衛生検査機関の培養検査で *Vibrio cholerae* O1 Ogawa が確認された。

公衆衛生当局による対応

公衆衛生当局による対応は以下の通りである。

- ・ FMoH は、WHO の支援を受け9月10日に国のコレラ対策本部を立ち上げた。
- ・ WHO は、FMoH による対策の調整および現地での対策戦略の策定を支援するため技術チームを派遣した。
- ・ 症例定義の周知、患者調査用書式の配布、積極的症例探知、および症例情報の維持管理により、サーベイランスおよび報告システムが強化された。
- ・ FMoH により青ナイル州に4カ所およびセンナール州に10カ所 (計14カ所) のコレラ治療センターが設置され、患者管理のプロトコルが標準化された。
- ・ FMoH、WHO およびその他の協力機関により、患者200人の治療が可能なコレラキットがすでに提供されており、さらに3セット (300人の治療が可能) が準備中である。
- ・ WHO は、水質監視システム、水検体の採取・検査、および感染予防管理に関わる活動を支援している。
- ・ 青ナイル州保健局は、協力機関の支援を受け、患者発生地域の生活用水の塩素処理および健康管理に関わる活動を進めている。

- ・ WHO は、「ワクチンと予防接種のための世界同盟（GAVI）」による支援を受け、セナール州および青ナイル州の 160 万の人々を対象に経口コレラワクチン（OCV）キャンペーンを開始した。使用される OCV は WHO の世界的な備蓄から提供されている。

WHO によるリスク評価

スーダンでは、2016 年以降にコレラ疑い患者数が急増している。現在発生中のアウトブレイクは、スーダン全 18 州のうち 15 州で最近発生した豪雨と洪水の後に報告された。洪水とインフラの甚大な被害はまだ続いており、これに伴い、患者数のさらなる増加が懸念されている。青ナイル州はエチオピアおよび南スーダンと国境を接しているが、本アウトブレイクが国境を越えて拡大していることを示すエビデンスは現時点では存在しない。しかし、スーダンの首都ハルツームを含むナイル川のより下流に位置する地域ではコレラ流行のリスクが懸念される。スーダン政府は患者の検出に迅速に対応しており、国の複数の機関が協力機関からの支援を得て本アウトブレイクの制圧に必要な管理対策を実施中である。

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター（US CDC: Centers for Disease Control and Prevention）
<http://www.cdc.gov/>

1. ペットのカメに関連して発生しているサルモネラ（*Salmonella* Oranienburg）感染アウトブレイク（初発情報）

Outbreak of *Salmonella* Infections Linked to Pet Turtles

October 9, 2019

<https://www.cdc.gov/salmonella/oranienburg-10-19/index.html>

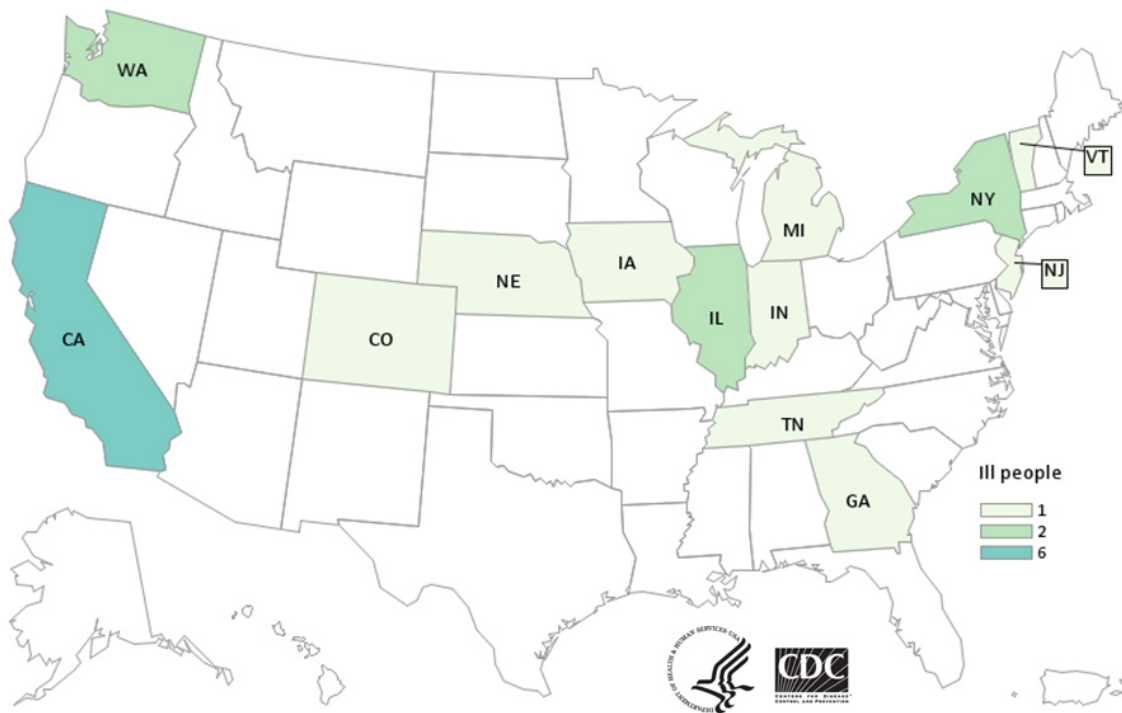
米国疾病予防管理センター（US CDC）および複数州の公衆衛生当局は、ペットのカメとの接触に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Oranienburg）感染アウトブレイクを調査している。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離されたサルモネラ株には、標準化された検査・データ解析法である全ゲノム

シーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような全ゲノム配列の国内データベースを管理している。WGS 法による解析結果は疾患の原因菌について詳細な情報をもたらす。本アウトブレイク調査では、WGS 解析により患者由来サルモネラ分離株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

2019年10月8日までに、*S. Oranienburg* アウトブレイク株感染患者が13州から計21人報告されている(図)。

図：サルモネラ (*Salmonella Oranienburg*) アウトブレイク株感染患者数 (2019年10月8日までに報告された居住州別患者数、n=21)



患者の発症日は2019年5月29日～9月3日である。患者の年齢範囲は1歳未満～80歳、年齢中央値は24歳で、76%が女性である。情報が得られた患者20人のうち7人が入院した。死亡者は報告されていない。

患者由来の12株について実施したWGS解析の結果、抗生物質耐性は予測されなかった。この結果は、アウトブレイク株3株についてCDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム (NARMS) 検査部門が標準的な抗生物質感受性試験法を用いて行った検査の結果により確認された。

アウトブレイク調査

疫学・追跡調査で得られたエビデンスは、ペットのカメとの接触が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示している。

患者に対し、発症前 1 週間における動物との接触について聞き取り調査が行われた。すでに聞き取りが行われた患者 17 人のうち、12 人 (71%) がペットのカメと接触したことを報告した。これらのカメは、患者がペット店で購入または贈り物として入手したものであった。

患者は、甲羅の長さが 4 インチ (約 10 センチ) を超えるアカミミガメ (red-eared sliders) などのカメと接触したことを報告した。甲羅の長さが 4 インチ未満のカメに関連するサルモネラ感染アウトブレイクは、今までに複数件発生している。このような小型のカメに関連するサルモネラ感染患者はその数が多いことから、米国食品医薬品局 (FDA) は、甲羅の長さが 4 インチ未満のカメをペットとして販売・出荷することを禁止している。

購入先や甲羅の大きさに関係なく、カメはヒトの疾患の原因となるサルモネラを保菌している可能性がある。ペットの所有者は、自身の健康を保つためペットの取り扱い時の衛生手順を常に遵守すべきである。

本アウトブレイクの調査は継続中であり、CDC は更新情報を提供していく予定である。

2. メキシコ産カキに関連して複数州にわたり発生した胃腸疾患アウトブレイク (最終更新)

Multistate Outbreak of Gastrointestinal Illnesses Linked to Oysters Imported from Mexico (Final Update)

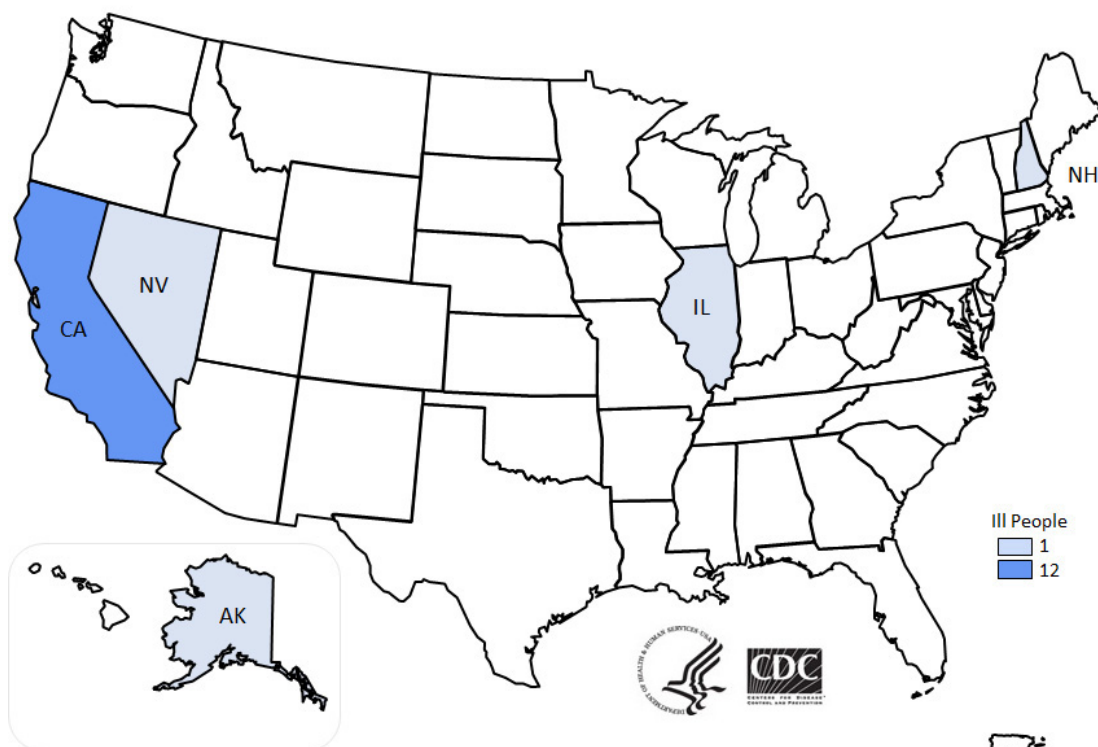
June 21, 2019

<https://www.cdc.gov/vibrio/investigations/rawoysters-05-19/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC) および複数州の公衆衛生・食品規制当局は、メキシコのバハ・カリフォルニア・スル州 Estero El Cardon 水域で採捕された生カキに関連して複数州にわたり発生した胃腸疾患アウトブレイクを調査した。

2019 年 6 月 21 日までに、5 州から計 16 人の患者が報告された (図)。本アウトブレイクの患者は、腸炎ビブリオ (*Vibrio parahaemolyticus*)、赤痢菌 (*Shigella flexneri*)、O157 以外の血清群の志賀毒素産生性大腸菌 (STEC non-O157)、ビブリオ・アルベンシス (*Vibrio albensis*)、カンピロバクター (*Campylobacter lari*)、ノロウイルス (GI) などの病原体のうちの 1 種類に感染、または複数種類に混合感染していた。

図：1種類または複数種類の胃腸病原体アウトブレイク株に感染した患者（2019年6月21日までに報告された居住州別患者数、n=16）



患者の発症日は2018年12月16日～2019年4月17日であった。情報が得られた患者15人の年齢範囲は26～80歳、年齢中央値は38歳で、60%が男性であった。情報が得られた患者15人のうち2人（13%）が入院した。

全ゲノムシーケンシング（WGS）解析により、患者由来の *C. lari* 1株および *V. parahaemolyticus* 5株にアンピシリンへの耐性が予測された。アンピシリンは、*C. lari* 感染または *V. parahaemolyticus* 感染の治療に推奨される抗生物質ではない。また、患者由来の *S. flexneri* 5株には、アンピシリン、クロラムフェニコール、ストレプトマイシンおよびテトラサイクリンへの耐性が予測された。耐性に関する情報が得られる前に一般的に使用されるのは他の抗生物質であるため、これらの結果が治療に影響を及ぼす可能性は低い。患者由来の STEC 1株に耐性は予測されなかった。一般に、STEC 感染患者に抗生物質は推奨されない。

アウトブレイク調査

CDC、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、メキシコのバハ・カリフォルニア・スル州 Estero El Cardon 水域で採捕された生カキに関連して発生した胃腸疾患患者を調査した。2019年3月29日、PulseNet（食品由来疾患サーベ

イランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) により患者由来検体で遺伝学的に近縁な *V. parahaemolyticus* のクラスターが確認され、複数州にわたる調査が同日に開始された。

疫学・追跡調査の結果は、メキシコのバハ・カリフォルニア・スル州 Estero El Cardon で採捕された生カキが本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示した。複数州の公衆衛生当局は、当該採捕水域由来の生カキを喫食して発症した患者が他にもいることを特定した。FDA は、CDC が調査対象とした患者の一部について調査を行った。

患者に対し、発症前 1 週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が実施された。聞き取り調査が行われた患者 15 人全員が、カリフォルニア州およびネバダ州の様々なレストランでの生カキの喫食を報告した。各州の公衆衛生当局がこれらの患者 15 人について追跡情報を収集した結果、生カキの出荷業者として Sol Azul 社 (バハ・カリフォルニア・スル州 Mulege) が、採捕水域として Estero El Cardon が特定され、当該製品は、カリフォルニア、ネバダ、ニューヨークおよびアリゾナの各州に出荷されていた。また、メキシコからの直輸入や米国内での再出荷により、その他の州にも当該製品が流通した可能性がある。当該製品は、レストランへの直接販売を行う卸売業者に出荷され、食料品店には出荷されていなかった。

2019 年 5 月 6 日、当該水域で採捕されたカキの米国での流通業者 1 社が自主回収を発表した (以下の Web ページ参照)。

<https://www.cdph.ca.gov/Programs/CEH/DFDCS/CDPH%20Document%20Library/FDB/FoodSafetyProgram/FoodRecalls/May%202019/fdbFrDC1n.pdf>

翌 7 日に当該水域は閉鎖され、調査結果が出るまで採捕禁止となった。メキシコの公衆衛生当局の要請により、2019 年 4 月最終週～5 月第 1 週に当該水域で採捕され、販売目的で流通しているすべての生カキの回収が開始された。当該水域は 2019 年 6 月 13 日に再開した。

2019 年 6 月 21 日時点で本アウトブレイクは終息したと考えられる。消費者、レストランおよび小売業者は、カキの取り扱い、加熱を常に適切に行うべきである。カキなどの貝類による食品由来疾患を予防するための助言が CDC の以下の Web ページに発表されている。

<https://www.cdc.gov/vibrio/prevention.html#cooking>

(食品安全情報 (微生物) No.11 / 2019 (2019.05.29) US CDC 記事参照)

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<http://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：Filicetti ブランドのマイルドドライソーセージ (ITALIAN STYLE SAUSAGE) に関連して発生しているサルモネラ (*Salmonella* Litchfield) 感染アウトブレイク (初発情報)

Public Health Notice — Outbreak of *Salmonella* illnesses linked to Filicetti brand Italian Style mild, dry, cured sausage

October 23, 2019 – Original Notice

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notices/2019/outbreak-salmonella-sausages.html>

カナダ公衆衛生局 (PHAC) は、複数州の公衆衛生当局、カナダ食品検査庁 (CFIA) およびカナダ保健省 (Health Canada) と協力し、オンタリオおよびケベックの両州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Litchfield) 感染アウトブレイクを調査している。PHAC への新規患者の報告が続いていることから、本アウトブレイクは継続していると考えられる。

現在までの調査結果にもとづき、本アウトブレイクの感染源として Filicetti ブランドのマイルドドライソーセージ (ITALIAN STYLE SAUSAGE) への曝露が特定されている。一部の患者が発症前に当該製品を喫食したと報告した。その他の患者からも Filicetti ブランドのドライソーセージの日常的な喫食が報告された。本アウトブレイク調査は継続しており、追加で別の製品が原因食品として特定される可能性がある。

2019年10月16日、CFIA は、Filicetti ブランドの ITALIAN STYLE SAUSAGE などの様々な ready-to-eat (そのまま喫食可能な) ドライソーセージ製品からサルモネラが検出されたとして、これらの製品について食品回収警報を発した。

10月16日の回収の発表を受け、Filicetti ブランドの ITALIAN STYLE SAUSAGE の検体については検査機関での追加検査が完了した。検査機関での解析の結果は、当該ソーセージ製品と上記 2 州の患者から検出されたサルモネラ株が遺伝学的に同一の株であることを示している。

その後 CFIA は、追加で別の製品を関連食品と特定し、食品回収警報を更新した (下記 Web ページ参照)。

<https://www.inspection.gc.ca/about-the-cfia/newsroom/food-recall-warnings/complete-listing/2019-10-17/eng/1571351315547/1571351316154>

カナダ国民は回収対象製品およびこれらを使用した製品の喫食を避け、食品提供施設は当該製品およびこれらを使用した可能性がある製品の販売・提供を避けるべきである。

CFIA は、食品安全調査を継続しており、その結果として別の製品が回収対象に追加される可能性がある。その場合は、CFIA は食品回収警報の更新によって消費者に通知する予定である。

アウトブレイク調査の概要

2019年10月23日時点で、計12人の *S. Litchfield* 感染確定患者がオンタリオ州(10人)およびケベック州(2)から報告されている。患者の発症日は2019年5月～9月である。1人が入院したが、死亡者は報告されていない。患者の年齢範囲は4～81歳で、58%が女性である。

S. Litchfield 感染患者の報告が増加したことから、合同アウトブレイク調査が開始された。本アウトブレイク株はカナダではまれなサルモネラ株である。

-
- 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2019年10月11日～25日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

アイルランド産ボトル入り無炭酸水・炭酸水の大腸菌・緑膿菌 (>100 CFU/250ml)・腸球菌、オーストリア産冷蔵加熱済みハムのリステリア (*L. monocytogenes*, 110 CFU/g)、ハンガリー産カットケバブのサルモネラ (25g 検体陽性)、ベルギー産冷蔵ハラル対応カレーチキンバーガーのサルモネラ (25g 検体 1/5 陽性)、中国産冷凍金時豆 (ready-to-eat サラダに使用) のリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、オランダ産冷凍家禽肉製品のサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍ケバブのサルモネラ (*S. Agona*, 25g 検体陽性)、ベトナム産挽いた黒コショウ (ポーランドで包装) のサルモネラ (25g 検体陽性)、フランス産冷蔵羊乳チーズのリステリア (*L. monocytogenes*, <100 CFU/g)、ルーマニア産冷蔵スモークサバ (真空包装) のリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、オラ

ンダ産冷凍生ペットフードのサルモネラ (*S. Agona*、*S. Derby*、ともに 25g 検体陽性)、ドイツ産冷蔵乳のエロモナス (*A. hydrophila*、*A. caviae*)、ベルギー産子ヒツジとたいの腸管病原性大腸菌 (O157、*stx1+*、*stx2+*、*eae+*)、イタリア産ゴルゴンゾーラマスカルポーネチーズのリステリア (*L. monocytogenes*、320 CFU/g)、ハンガリー産冷凍ガチョウ (内臓付きホール) のサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

ポーランド産冷蔵丸鶏 (エストニア経由) のサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍七面鳥むね肉 (チェコで包装) のサルモネラ (*S. Saintpaul*、25g 検体陽性)、ベルギー産冷蔵機械分離鶏肉のサルモネラ (10g 検体陽性)、ポーランド産冷蔵ブロイラーのサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、ポーランド産冷蔵家禽肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、バングラデシュ産冷凍生エビ (*Penaeus monodon*) の腸炎ビブリオ (*V. parahaemolyticus*、25g 検体陽性)、ウクライナ産冷蔵真空包装鶏カット肉 (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体陽性)、ハンガリー産冷蔵生鴨フォアグラ (真空包装) のリステリア (*L. monocytogenes*、11,000 CFU/g)、ポーランド産冷蔵鶏ひき肉のサルモネラ (*S. Livingstone*、25g 検体陽性)、オランダ産活カキのサルモネラ (25g 検体陽性)、フランス産スモーク鶏脚肉のリステリア (*L. monocytogenes*、>15,000 CFU/g)、オランダ産シュリンプサラダのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

ドイツ産冷蔵牛肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ベトナム産小麦粉の昆虫 (コクヌストモドキ)、ポーランド産冷凍豚頬肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ドイツ産菜種ミールのサルモネラ (*S. Tennessee*、25g 検体陽性)、ドイツ産クリームヨーグルトのカビ、スイス産ライ麦ビスケット (スウェーデンで製造) の生きた昆虫 (ノコギリヒラタムシ)、イタリア産パスタの昆虫、フランス産冷凍ハウレンソウの昆虫 (死骸)、ブルガリア産有機ヒマワリ搾油粕のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、ベルギー産牛乳のボツリヌス毒素など。

通関拒否通知 (Border Rejection)

カナダ産 *Sebastes mentella* (魚) のアニサキス、ブラジル産黒コショウのサルモネラ (*S. Kiambu*、25g 検体陽性)、米国産魚粉のサルモネラ (*S. Anatum*、*S. Molade*、*S. Ochiogu*、いずれも 25g 検体陽性)、米国産魚粉のサルモネラ (*S. Montevideo*、25g 検体陽性)、スリランカ産 betel leaf (キンマの葉) の大腸菌 (~4,000 CFU/g)、インド産粉砕コショウのサルモネラ (25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍牛肉 (骨なし) の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx1*、25g 検体陽性)、ペルー産魚粉の腸内細菌科菌群 (<10・<10・20・50・200 CFU/g)、ペルー産魚粉の腸内細菌科菌群 (~600 CFU/g)、ウクライナ産乾燥ビートパルプのカビ、ロシア産菜種ミールのサルモネラ (*S. Münster*、*S. Tennessee*、ともに 25g 検体陽性)、ヨルダ

ン川西岸・ガザ地区産シナモン・カレーのエンテロトキシン産生性セレウス菌 (6,000・120,000 CFU/g)、モロッコ産冷蔵マトウダイのアニサキス、ウクライナ産ヒマワリ種子ミールのカビ、ブラジル産冷凍鶏むね肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、米国産魚粉のサルモネラ (O:7、25g 検体陽性)、ブラジル産黒コショウのサルモネラ (*S. Newport*、25g 検体陽性)、ブラジル産黒コショウのサルモネラ (25g 検体 2/5 陽性)、ウクライナ産家禽肉ミールのサルモネラ (25g 検体陽性)、ウルグアイ産冷凍牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (O103、*stx1+*、*stx2*、*eae+*、25g 検体陽性) など。

● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

家畜、フードチェーンおよび公衆衛生に関するリスク評価の研修

Livestock, food chain and public health risk assessment

17 September 2019

<https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/j.efsa.2019.e170912> (報告書 PDF)

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/e170912>

欧州食品安全機関 (EFSA) が資金供与する欧州食品リスク評価 (European Food Risk Assessment : EU-FORA) フェローシッププログラムにおいて、英国動植物衛生庁 (APHA : Animal and Plant Health Agency) から「家畜、フードチェーンおよび公衆衛生のリスク評価」に関する研修の実施が提案された。食品安全の分野に携わる研究者 1 名が選出され、APHA の疫学研究部において、経験を積んだリスク評価専門家の指導のもとで研修することとなった。研修プログラムは、リスク評価 (RA) に関連する様々な側面をカバーする 4 つのモジュールで構成されており、全体で RA の様々な方法・ツール・アプリケーションの概略が把握できるようになっていた。研修生はこの実践的研修プログラムに参加することによって、RA に関する知識を増やし、個人の能力の幅を広げ、将来の連携のための研究者ネットワークを拡大することができた。

● アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC Ireland: Health Protection Surveillance Centre, Ireland)

<http://www.hpsc.ie/hpsc/>

アイルランドにおける A 型肝炎の疫学的状況 (2018 年)

Epidemiology of hepatitis A in Ireland, 2018

Epi-Insight Volume 20, Issue 9

September 2019

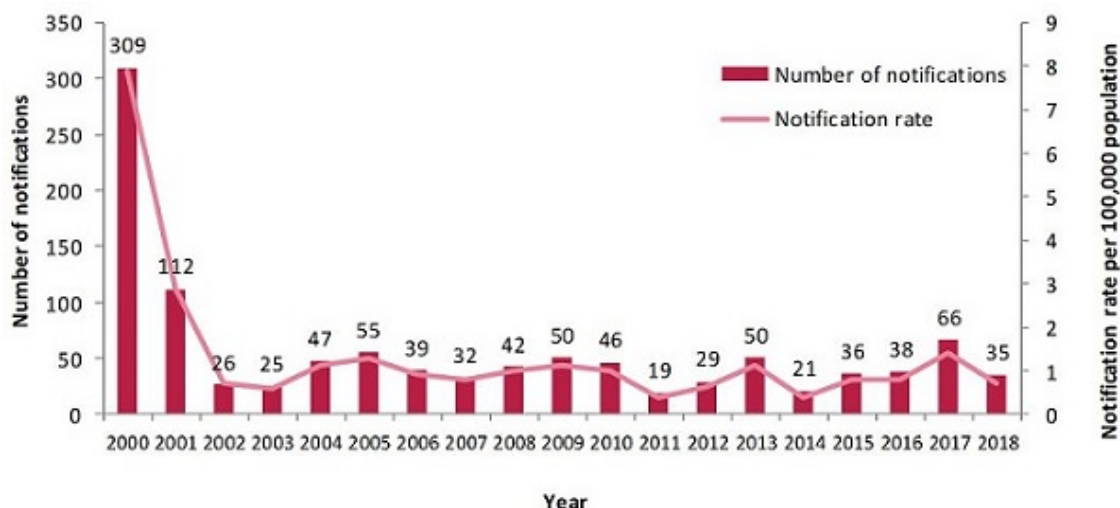
<http://ndsc.newsweaver.ie/epiinsight/yubx8d6z4px10gkzp9yxn5>

A 型肝炎は世界各地で発生しているが、感染リスクは衛生設備レベルおよび個人の衛生管理の状態によって差がある。アイルランドは A 型肝炎の罹患率が低い国と考えられている。アイルランドの患者は発症前の海外渡航歴があるか、海外渡航歴がある初発患者を含む小規模なアウトブレイクの一部であることが多い。共通の原因食品による食品由来アウトブレイクも発生している。また、保育施設に関連するアウトブレイク、男性間性交渉者 (MSM) 間および注射薬物使用者 (PWID) 間でのアウトブレイクも報告されている。

A 型肝炎には安全かつ有効なワクチンがある。A 型肝炎の流行地域 (アフリカ、アジア、中南米、東欧、中東) への渡航者、および感染または重症化の可能性のある高リスク集団 (MSM、PWID、慢性肝疾患患者など) にはワクチン接種が推奨される。

2018 年、アイルランドで報告された A 型肝炎患者は 35 人であった (人口 10 万人あたり 0.7 人)。患者数は 2017 年より減少したが、2015 年および 2016 年とは同程度である (図)。2018 年に報告率が最も高かったのは小児および若年～中年層の成人であった。これはアイルランドにおける A 型肝炎の典型的なパターンであり、免疫を持たないことと海外渡航をそれぞれ反映している。25～44 歳の男性の報告率は同じ年齢層の女性より高く、その主な理由は、この年齢層に MSM の患者が 5 人いたことである。

図：アイルランドのA型肝炎の報告患者数および人口10万人あたりの報告率(2000～2018年)



2018年のA型肝炎患者35人のうち33人について、感染した可能性が最も高い国が報告された。このうち79% (n=26) が海外渡航に関連し、残り21% (n=7) が国内で感染していた。しかし、国内感染の4人は、初発患者が海外での感染であったアウトブレイクに関連していた。感染した可能性が高い地域は患者数の多い順に、アイルランドを含む西欧 (n=10)、南および南東アジア (n=8)、中欧 (n=5) および中南米 (n=4) であった。

近年、アイルランドおよび欧州全域で、A型肝炎アウトブレイクの探知およびモニタリングに塩基配列解析が大きく貢献している。2016および2017年にアイルランドを含む欧州諸国のMSMで大規模アウトブレイクが発生し、その探知およびモニタリングに塩基配列データは特に重要であった。その後、アイルランド健康福祉庁(HSE)、アイルランドの非政府組織および地域グループにより、MSMのA型肝炎リスクの認識を高め、ワクチン接種および性行為の安全な手段を普及させる重要な活動が実施された。2018年の報告患者のうち5人がMSMであることが確認され、リスク集団でのワクチン接種を推進する継続的な活動が必要であることが示された。

輸入冷凍ベリーに関連した複数のアウトブレイクの探知においても、塩基配列データが有用であった。アイルランド食品安全局(FSAI)は、喫食前に生鮮ベリー類を洗うことおよび冷凍ベリー類を1分間煮沸することを助言している。

この報告書要約で紹介した数値は、感染症電子報告システム(CIDR: Computerised Infectious Disease Reporting System)から2019年7月22日に抽出したデータにもとづいている。CIDRの報告データは随時更新が行われていることから、ここに紹介した数値は以前に発表された数値とは異なる可能性がある。報告書全文およびA型肝炎に関するスライドセットがHPSCのサイトから入手可能である。

<https://www.hpsc.ie/about/hpsc/annualreports/> (報告書全文)

<https://www.hpsc.ie/a-z/hepatitis/hepatitisa/slidesets/> (A型肝炎に関するスライドセット)

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 2019 (22)

Cholera, diarrhea & dysentery update 2019 (22)

16 October 2019

イエメンのコレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	10/15		2016年10月 ~2019年8月	(死亡者含む疑い) 2,036,960	3,716

・10,000人あたりの罹患率

全国平均：713.99

最も高い5県：Amran (1,602.13)、Al Mahwit (1,474.79)、Sana'a (1,295.78)、Al Bayda (1,027.14)、Dahamar (957.61)

・死亡者数が最も多い4県

Hajjah (559)、Ibb (486)、Al Hudaydah (380)、Taizz (304)

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室